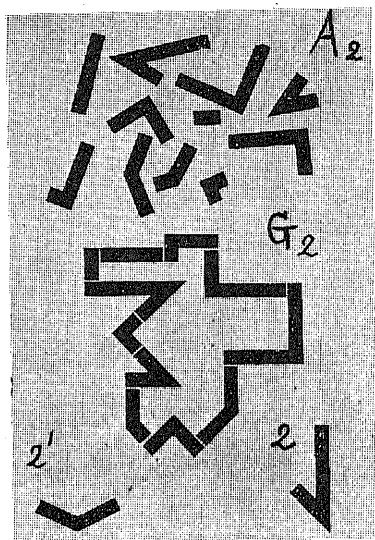
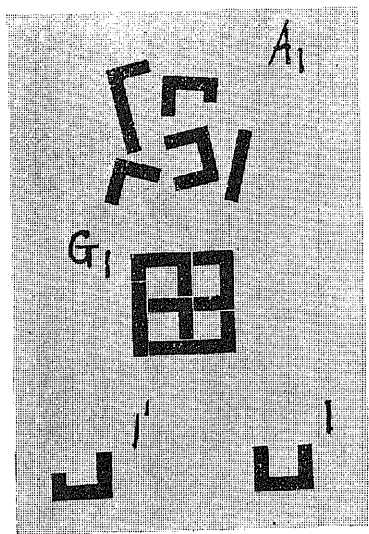


# 幼児の抽出検査 (二)

京都市保育會研究部



前回到報告致しました抽出検査(本誌二月號參照)の結果を繰返して申しますと。

(一)まとまつた形をもつたもの(G)から、その部分を抽出する方が、まとまつた形をもつて居ないもの(A)から抽出すより長い時間を要する。

(二)Gからその部分を抽出する所要時間と、(A)から抽出する所要時間との比は年令と共に増加する。之を言ひ換へますと、

(一)Gから抽出する方がAから抽出するより難しい。

私達はこのことを單に解答所要時間の上ばかりでなく、解答不能兒の數、不正解答兒の數、見直した幼兒の數の上でも證明し得たのでした。

(二)Gから抽出するのと、Aから抽出するのとの難しさの割合が年令と共に増加する。

更に換言すれば、年の幼い程、抽出する場合には、まとまつた形といふものに邪魔せられることが大きい、このことを解答所要時間の外に不正解答をした幼兒の數の上でも證明し得たのでした。

つまり本抽出検査の中心點は、Aといふ刺戟とGといふ刺戟との意識にとつての相異にあるのです。御覽の通りGは「まとまつた形」をもつて居ます。そして「まとまつた形」といふ全體的な性質はその部分(倒へば1. 1. 2. 2.)の中には全くありません。「まとまつた形」といふ性質は部分の性質の外に在る新しい全體的な性質即ち形態性です。所がAの方ではGのやうなまとまつた形がなく、Gの部分に相當する要素がばらばらにあるばかりです。それがために(一)のやうな結果になり、年令による相違を見ると(二)のやうな結果になるのです。

かやうに考へて見ますと、前回と異つてAやGの部分を夫々皆に色を變へて見ればどうなるか？ 各

部分を皆異つた色にすればGの場合には特にその部分一つ一つが目立つて来て前回のやうな黒一色の場合に較べて「まとまり」が少くなる、「まとまつた形」といふ全體の性質が弱くなる、こんな場合に抽出検査の結果はどうなるか? といふ問題が大層興味あることになつて來ます。

かやうな興味に惹かれて昨年十二月に三百十八人の幼児について検査を行いました。AとGとは勿論各部分一つ一つ異つた色に致しました(色紙を用ひて)1.<sup>1</sup>1.<sup>2</sup>1.<sup>2</sup>は前と同様黒です。検査の方法は前回と全く同様ですが、今回は幼児の受檢の時の態度を委しく記載致しました、(之は只今は報告致しません)が或は他の機會に委しく報告することもあらうかと思ひます。一般に検査をします時にその時の受檢者の態度によつて注意する必要があることは申す迄もありませんが)

上述三百十八人中、解答不能兒、その他検査中に他よりの妨害があつたものを除いて合計二百八十三人の結果について次に簡単に申し述べませう。

年令別には受檢月を中心として半才毎に處理致しましたが受檢兒の少いたためと各年令の幼児の數の不揃なために前回のやうに良い結果にはなつて居ません。五才と六才と二つに分けて見ましても、上述の(二)を充分に立證し得るやうな結果にはなつて居りませんが、左に表示致して置きます。

	5才		6才		
	A <sub>1</sub>	G <sub>1</sub>	A <sub>1</sub>	G <sub>1</sub>	平均
□	2.93	6.69	2.77	4.85	4.11
□	4.07	4.58	3.93	4.32	4.19
平均	3.50	5.52	3.35	4.58	4.15

	5才		6才		
	A <sub>2</sub>	G <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	G <sub>2</sub>	平均
∟	4.20	7.68	4.13	7.57	5.88
>	10.61	8.36	7.69	7.80	8.28
平均	7.41	8.02	5.91	7.69	7.08

(色を變へたために前回の結果と異つて來たことは、或は非常に面白いことゝ考へられます。子供の心にとつては色と形とはどちらが重要なものであるか—どちらに興味を惹かれるかといふ古くからの問題に關して面白いことでありますが、今は之以上に述べないことに致します)。

次に(一)の問題について申しますと、平均

不正解答兒數 } A 一四 %  
 } G 一七 %

見直した幼兒の數 } A 三三 %  
 } G 四一 %

解答所要時間 } A<sub>1</sub> 三、四〇秒  
 } G<sub>1</sub> 四、九〇秒

} A<sub>2</sub> 六、三七秒  
 } G<sub>2</sub> 七、七九秒

となつて居て矢張りGから抽出する方がAから抽出するより難しいことになつて居りますが、前回の結

果と較べて頂くとよく分るやうに、その差―難しさの差異―が少なくなつて居ります。之は明かにA、G各部分の色を一つ一つ變へたためであつて、そのために各部分が目立ち「まとまつた形」といふ全體的な性質が弱まつたのであると考へられます。

解答所要時間を委しく表示して見ますと次のやうになりますが、

	⌋	⌋	平均
A <sub>1</sub>	2.82	3.98	3.40
G <sub>1</sub>	5.41	4.40	4.90
平均	4.11	4.19	4.15

	∟	<	平均
A <sub>2</sub>	4.15	8.59	6.37
G <sub>2</sub>	7.61	7.97	7.79
平均	5.88	8.28	7.08

ここに注目すべき結果が見られます。即ちA<sub>1</sub>、G<sub>1</sub>から「⌋」を抽出す時も「⌋」を抽出す時も、A<sub>2</sub>、G<sub>2</sub>から「∟」を抽出す時にも、その所要時間はGの方が大であるにも係らず、A<sub>2</sub>、G<sub>2</sub>から「<」を抽出す時には反對にAから抽出す時の方が所要時間が大になつて居ます。之は∟の色が他のものに比して薄くて非常に刺戟が弱く印象が弱いからであると考へられることであつて、重要な事實であらうと思ひます。∟を抽出す時には不正解答見數についても

$\left. \begin{array}{l} A_2 \\ G_2 \end{array} \right\} \begin{array}{l} 31\% \\ 22\% \end{array}$

見直したものの数も

$\left. \begin{array}{l} A_2 \\ G_2 \end{array} \right\} \begin{array}{l} 54\% \\ 41\% \end{array}$

となつて居ます。

要するに本検査の結果については次のやうなことが言ひ得るやうに思はれます。

(一) G からその部分を抽出するのは A からその部分を抽出するより難しい。

(二) A G の各部分を一つ一つ異つた色にすると A から抽出する場合と G から抽出する場合との解答所要時間の差が、前回の如く A G の各部分が一色である場合より小さい、従つて前回の G より今度の G の方が、全體性が弱まり各部分が優勢になつて居る。

(三) A G の各部分の色が異つて居る場合に、非常に弱い刺戟の、弱い印象を與へる(色の薄い)色をもつた部分を抽出するには、G 即ちまどまつた形をもつて居ないものからより容易である。